

「教育課程表（カリキュラム表）」の見方

教養課程および専門教育課程において開講されている科目は、教育課程表（カリキュラム表）で確認できます。この課程表の中から自分が必要とする科目を選びましょう。なお、教育課程表（カリキュラム表）には、科目以外にも、次のことが書かれています。学習を開始する前に必ず一読し、学習の道筋をつけましょう。

- 卒業に必要な条件（卒業所要単位）
- 学習を開始できる最低学年（履修学年）
- 科目構成単位
- 必ず履修する必要がある科目（必修科目）や、自由に選択できる科目（選択科目）などの科目区分

▶ p.46 「教育課程表（カリキュラム表）」 ▶ p.68 「進級要件」

サンプル

一般教育	36単位	人文分野	8単位以上
		社会分野	8単位以上
		自然分野	8単位以上
外国語	1外国語4単位（うちスクーリング2単位以上）		
保健体育	2単位		
合計	42単位		

卒業所要単位
卒業するために必要な単位とその内訳を記載しています。各区分の開講科目の詳細は下表で確認しましょう。

履修学年	区分	分野	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	人文	文学	4	8単位以上
			西洋史	4	
			日本史	4	
			哲学	4	
			東洋史	4	
		社会	論理学	4	8単位以上
			法学（日本国憲法）	2	
			経済学	2	
			人文地理学	4	
			自然地理学	4	
		自然	政治学概論	4	8単位以上
			社会学	4	
			文化人類学	4	
			心理学	4	
			数学1	2	
選択	その他	数学2	2	4単位まで履修可 10単位まで認定可	
		数学3 ⑤	2		
		生物学1	2		
		生物学2 ⑥	2		
		生物学3 ⑤	2		
		化学1	2		
		化学2	2		
		化学3 ⑤	2		
		物理学1	2		
		物理学2	2		
物理学3 ⑤	2				
		基礎特講 ⑤	2	4単位まで履修可	
		放送大学単位認定科目	2	10単位まで認定可	

構成単位
科目の構成単位を満たすと、卒業所要単位に算入されます。構成単位が4単位の科目については、スクーリングで2単位を修得しただけでは、原則として卒業所要単位には算入されません。

⑤はスクーリングのみの開講科目
⑥はメディアスクーリングのみの開講科目
(注) 表中の色文字は遠隔テキスト・使用科目（通信学習時）

区分
各区分の違いについては▶ p.44 「2 授業科目の種類」で確認しましょう。

履修学年
履修を開始できる学年を表します。記載された学年以上であれば履修できます。



卒業所要単位への算入およびその他の単位修得における注意事項は、教育課程表（カリキュラム表）に併記されている注意点を確認しましょう。

実際に学習できる科目について具体的に見てみましょう。ここでは、科目を選択する際に参照するカリキュラムとシラバスについて説明します。学習できる科目を確認したら、学習科目と学習方法を決めましょう。

・シラバスとは？

その科目の到達目標や学習内容、成績評価基準や指定テキストについて記載した補助資料です。これを見れば、その科目で学ぶ内容を理解することができます。

シラバスで各科目の学習内容を確認

教育課程表（カリキュラム表）で開講科目や卒業に必要な単位数などを確認したら、シラバスを見ながらさっそく学習する科目を決めましょう。



通信学習科目

法政大学Webシラバス、「通信学習シラバス・設題総覧2022」に掲載。

▶ p.11 「通信学習シラバス・設題総覧2022」



スクーリング学習科目

開講時期に合わせて法政大学Webシラバス、「法政通信」に掲載。

▶ p.12 「法政通信」

法政大学Webシラバス



学習方法を選択

興味がある科目について、①通信学習、②スクーリング学習のどちらで学習するかを選択し、学習を開始しましょう。スクーリングで開講する科目は毎年異なります。



通信学習（テキストとレポートで学ぶ）

通信学習では、事前に学習する科目を大学に登録する、いわゆる「履修登録」の制度はありません（科目履修生の一部の教職課程科目などを除く）。履修科目を決めたら、さっそく学習を開始しましょう。

▶ p.18 「通信学習の進め方」

通信学習が可能な科目を確認しよう

▶ p.46 「教育課程表（カリキュラム表）」

▶ p.11 「通信学習シラバス・設題総覧2022」に掲載された科目



スクーリング学習（講義で学ぶ）

「法政通信」に掲載される手続き期間内に履修申請、受講料の振り込みを行う必要があります。

科目によっては定員が定められており、定員を超える申請があった場合は抽選になる科目もあります。

▶ p.20 「スクーリング学習の進め方」

スクーリング学習が可能な科目を確認しよう

▶ p.46 「教育課程表（カリキュラム表）」

▶ p.12 「法政通信」3、4月号に掲載される「2022年度スクーリング開講予定一覧」掲載科目

▶ p.12 「法政通信」開講時期に合わせて掲載される各スクーリングのお知らせ

▶ p.146 「2 Web学習サービス」

※スクーリング学習でのみ学習できる科目およびメディアスクーリング学習でのみ学習できる科目は、教育課程表（カリキュラム表）で確認できます。

授業科目と教育課程（カリキュラム）

1 教養課程と専門教育課程

教養課程	幅広い分野の基礎的な教養を修得するために設けられているカリキュラムで、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目で構成されています。1・2年次で中心的に学習します。
専門教育課程	専門的な知識や技能を体系的に修得するために設けられているカリキュラムです。この専門知識の集大成として、卒業論文があります（文学部では必修科目、法学部・経済学部では選択科目となります）。

2 授業科目の種類

◆ 授業科目は以下に分類されます。履修する際はその違いを理解し、教育課程表（カリキュラム表）にしたがって学習を積み重ねてください。

必修科目	・ 必ず修得しなければならない科目です。
選択必修科目・スクーリング選択必修科目	・ 設置科目の中から条件を満たすように選択して履修する必要がある科目です。 ・ 各科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
選択科目	・ 自由に選択して履修できる科目です。 ・ 科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
スクーリング必修科目	・ 必ずスクーリング学習で修得しなければならない科目です。
公開科目	・ 学部学科を問わず履修できる専門教育課程の選択科目です。 ・ 開講科目によって履修学年が異なる場合があります。 ・ 8科目16単位まで卒業所要単位として履修できます（開講科目によって履修上限回数異なる場合があります）。 ※「公開科目」の開講はスクーリングのみです。「公開科目」として開講される科目は、『法政通信』記載の各スクーリング時間割を確認してください（主に、地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります）。

※「履修・成績通知書」における「教職専門科目」「教科専門科目」は、教員免許に関する科目の分類です。卒業所要単位には算入されません。

※「履修・成績通知書」における「その他専門科目」は、以前の学籍とは異なる学科に復籍・再入学した際に以前の学籍で修得した科目や資格課程科目などの分類です。卒業所要単位には算入されません。

3 科目構成単位

- ◆ 開講科目に付されている単位を「科目構成単位」といいます。原則として、「科目構成単位」を満たすように学習を進めます。科目構成単位の充足方法については ▶ [p.33](#) を参照してください。
- ◆ 各科目の単位は、構成単位を満たして修得するまで、原則として卒業所要単位に算入されません。
- ◆ 原則として、科目構成単位を満たした科目は再履修できません。詳細は、教養課程および各学科の専門教育課程の教育課程表（カリキュラム表）に併記されている注意点を確認してください。

Chapter 1

つ
い
て
単
位
修
得
に

Chapter 2

教
材
に
つ
い
て

Chapter 3

学
部
・
学
科

Chapter 4

教
員
免
許
状
・
資
格
取
得

Chapter 5

学
習
方
法

Chapter 6

学
習
環
境
・
サ
ポ
ー
ト
制
度

Chapter 7

学
籍
・
学
費
・
諸
手
続
き

Chapter 8

各
種
資
料

Chapter 9

届
申
請
・
用
紙

教育課程表（カリキュラム表）

1 教養課程（全学部学科共通）

一般教育	36 単位	人文分野	8 単位以上
		社会分野	8 単位以上
		自然分野	8 単位以上
外国語	1 外国語 4 単位（うちスクーリング 2 単位以上）		
保健体育	2 単位		
合計			42 単位

一般教育科目

履修学年	区分	分野	授業科目	構成単位	卒業所要単位	
1～	選択必修	人文	文学	4	8 単位以上	36 単位
			西洋史	4		
			日本史	4		
			哲学	4		
			東洋史	4		
			論理学	4		
		社会	法学（日本国憲法）	2	8 単位以上	
			法学	2		
			経済学	4		
			人文地理学	4		
			自然地理学	4		
			政治学概論	4		
			社会学	4		
			文化人類学	4		
		自然	心理学	4	8 単位以上	
			数学 1	2		
			数学 2	2		
			数学 3 ㊟	2		
			生物学 1	2		
			生物学 2 ㊞	2		
			生物学 3 ㊟	2		
			化学 1	2		
			化学 2	2		
	化学 3 ㊟		2			
	物理学 1		2			
	物理学 2	2				
	物理学 3 ㊟	2				
選択	その他	基礎特講 ㊟	2	4 単位まで履修可		
		放送大学単位認定科目		10 単位まで認定可		

㊟はスクーリングのみの開講科目

㊞はメディアスクーリングのみの開講科目

（注）表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）

外国語科目

履修学年	区分	種類	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	英語	英語 2	2	いずれか 1 外国語 4 単位 (うちスクーリング 2 単位以上 (1 単位×2) を含む)
			英語 3	2	
			英語 S ⑤*	1	
		独語	独語 1	2	
			独語 S ⑤*	1	
		仏語	仏語 1	2	
仏語 S ⑤*	1				

⑤はスクーリングのみの開講科目
※複数回の受講が可能

保健体育科目

履修学年	区分	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	健康・スポーツ科学概論	2	いずれか 1 科目 2 単位
		スポーツ総合演習 ⑤	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目

教育課程表（カリキュラム表）の注意点

- a. 科目構成単位を満たした科目は原則として再履修できません。
- b. 一般教育科目
 - ▽ 人文・社会・自然の 3 分野からそれぞれ 8 単位以上を選択し、全体で 36 単位となるように履修してください。
 - ▽ 36 単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
 - ▽ 「基礎特講」は、2 回 4 単位まで卒業所要単位として履修できます。
 - ▽ 放送大学で修得した単位（外国語科目と保健体育科目を除く）を最大 10 単位まで、その他分野の単位として認定します（[▶ p.140 「放送大学での修得単位の認定」] 参照）。
 - ▽ 自然分野について、2012 年度以前カリキュラム設置科目の科目構成単位を充足済みであっても、2013 年度以降カリキュラム設置の同種科目を履修できます。ただし、メディアスクーリングで修得した場合、同一科目を再度メディアスクーリングで履修することはできません。

また、自然分野の卒業要件（8 単位以上修得）の判定においては、1 つの授業科目種別につき、6 単位まで有効とします（例：「数学」（4 単位）「数学 1～3」（各 2 単位）をすべて（計 10 単位）修得した場合、自然分野としては、6 単位まで有効とする。一般教育科目合計としては、10 単位すべて有効とする）。
- c. 外国語科目
 - ▽ 英語・独語・仏語のうち、いずれか 1 外国語を選択し、スクーリング修得単位 2 単位以上を含み 4 単位となるよう履修してください。4 単位すべてをスクーリングで修得することも可能です。
 - ▽ 上記要件を満たした外国語と同一外国語を再履修することはできません。
 - ▽ 2 外国語以上履修しても、1 外国語しか卒業所要単位に含まれません。
 - ▽ 1 外国語 4 単位を超えて修得した単位は卒業所要単位に含まれません。
- d. 保健体育科目
 - ▽ 「健康・スポーツ科学概論」または「スポーツ総合演習」のいずれか 2 単位が必修です。
 - ▽ 2 単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
- e. すでに卒業所要単位を充足済み（3 年次編入学および学士入学時に「認定」・「免除」された単位を含む）の場合は、単位を修得しても卒業所要単位に算入されません（スクーリング修得単位にのみ算入されます）。
- f. 3 年次編入学および学士入学において、「認定」・「免除」された科目を通信学習で履修する場合は、科目登録および科目登録料の振り込み（1 単位あたり 3,000 円）が必要です。詳細は各学部担当までお問い合わせください。
- g. 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[▶ p.62 「3 2013 年度からの変更点（抜粋）」] を参照してください。

5. 文学部史学科

必修	16 単位
スクーリング選択必修 (4 科目)	8 単位
選択 (日本・東洋・西洋の各分野から最低 1 科目)	50 単位
卒業論文 (卒業論文第 1 次～第 3 次指導が必修)	8 単位
合計	82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	日本史概説	4	16 単位
2～	史学概論	4	
	西洋史概説	4	
	東洋史概説	4	
4	卒業論文	8	8 単位

スクーリング選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	日本史概説	2	8 単位
2～	西洋史概説	2	
	東洋史概説	2	
3～	史学演習 1	2	
	史学演習 2	2	

選択科目

分野	履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
日本史の分野	3～	日本美術史	4	1 科目以上
		日本近代史	4	
		日本近世史	4	
		日本古代史	4	
		日本中世史	4	
		日本法制史	4	
		日本史特講 (社会史)	4	
		日本史特講 (地域社会史)	4	
		日本史特講 (日本思想史)	4	
		日本史特講 (日本仏教史)	4	
		日本古文書学	4	
		日本史特講 (地方史学) ※1	4	
		日本史特講 (日本科学史) ※1	4	
東洋史の分野	3～	東洋美術史	4	1 科目以上
		東洋史特講 (中国経済史)	4	
		日本文芸研究特講・漢文	4	
		東洋史特講 (中国思想史)	4	
		東洋史特講 (中国近世史)	4	
		東洋史特講 (東南アジア史)	4	
		東洋史特講 (中国現代史)	4	
西洋史の分野	3～	経済史 A	2	1 科目以上
		経済史 B	2	
		西洋史特講 (西洋哲学史)	4	
		西洋美術史	4	
		西洋史特講 (キリスト教史)	4	
		西洋史特講 (ロシア史 I)	2	
		西洋史特講 (ロシア史 II)	2	
		西洋史特講 (アメリカ史)	4	
⑤	2～	日本考古学	4	50 単位
	3～	日本史特講 (対外関係史)	4	
		日本史特講 (海外交渉史) ※1	4	
		文化地理学	4	
	経済地理学	4		
⑤	1～	総合特講	2	50 単位
		歴史資料学 1～6	2	
	2～	情報科学実習	2	
		総合外国語特講	2	
		スポーツ特講	2	
		(他学部・他学科公開科目)	2	
	3～	史学演習 3	2	
		史学演習 4	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

⑤はスクーリングのみの開講科目

※1 2020年度をもって廃止になりました。

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- a. 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、科目構成単位を満たした科目は原則として再履修できません。
- b. 「卒業論文」を受講するには事前の指導が必要です (卒業論文第 1 次～第 3 次指導)。
詳細は [▶ p.76](#) を参照してください。
- c. 「日本史概説」「東洋史概説」「西洋史概説」において、最初にスクーリングで修得した単位 (2 単位) はスクーリング選択必修科目の単位となります。その場合、卒業には同名の必修科目 (4 単位) と合わせて 6 単位の修得が必要となります。
※ 上記 3 科目のうち少なくとも 2 科目は、必修科目とスクーリング選択必修科目を合わせて 6 単位修得しなければなりません。
※ スクーリングでの修得がスクーリング選択必修科目の科目構成単位 (2 単位) を超えた場合は、必修科目の同名科目に算入します。
※ 必修科目「日本史概説」「東洋史概説」「西洋史概説」(各 4 単位) において 2 単位分の単位修得試験を受験するには、スクーリングで 2 回 4 単位修得していることが条件です。スクーリングで 3 回 6 単位修得することも可能です。
- d. スクーリング選択必修科目の 5 科目をすべて修得した場合、卒業判定時に「史学演習 2」を選択科目として卒業所要単位に算入します。
- e. 「史学演習」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位となります (1 回は必修)。1～4 の数字は授業内容にかかわらず修得順に付番されます。
- f. スクーリング科目の「史学演習」には日本・東洋・西洋の 3 分野があり、受講資格としてスクーリング申し込み時までに同分野の概説科目 (必修・選択必修は問わない) を 4 単位修得済みであることが必要です。
例: 「史学演習 (日本)」であれば、「日本史概説」を 4 単位修得済みでなければ受講資格がありません。
- g. 選択科目は日本・東洋・西洋の各分野から 1 科目以上、計 50 単位の修得が卒業要件です。
- h. 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- i. 「歴史資料学」は 6 回 12 単位まで卒業所要単位として履修できます。1～6 の数字は授業内容にかかわらず修得順に付番されます。
- j. 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
「公開科目」の開講は、『法政通信』などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- k. 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修回数異なる場合があります。
詳細は『法政通信』を参照してください。
- l. 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[▶ p.62](#) 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- m. 2019 年度より「東洋史特講 (南海史)」が「東洋史特講 (東南アジア史)」に名称変更しました。
- n. 2020 年度をもって「日本史特講 (地方史学)」、「日本史特講 (日本科学史)」、「日本史特講 (海外交渉史)」は廃止になりました。2021 年度以降入学者は履修できません。経過措置等の詳細については『法政通信』4 月号、10・11 月号の「レポート・単位修得試験」ページを参照してください (2023 年 3 月で経過措置終了)。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/subject/cultural.html>

